

サツマイモ輸出は追い風の中

一般財団法人いも類振興会 理事長 すずき しょうじ
鈴木 昭二

(輸出拡大の軌跡)

平成30年2月に公表された財務省貿易統計によれば、平成29年(暦年)のサツマイモの輸出は前年に比較し大きく伸び、数量で2,652トン(対前年16%増)、金額で9億7千万円(対前年12%増)に達した。これは偏に東南アジアを中心に日本の美味なサツマイモの輸出に努めてきた関係者の努力の結果と言えよう。

振り返ってみると、サツマイモの輸出振興が図られるようになったのは、平成時代の半ば頃からであり、貿易統計によれば、輸出額が1億円を超えたのは平成20年からで、つい最近のことである。しかしその後、政策として輸出振興のかけ声がかかるとともに徐々に輸出は増加し、平成25年頃を転換点として急激な輸出ドライブがかかり、平成25年の輸出額が3億円を越えると直ぐに平成27年には約6億円、そして先述の通り平成29年には約10億円を伺うまでに急増している。

また、その輸出先も多様化しており、平成20年頃は香港、台湾が中心であったが、現在は、これらに加えシンガポール、タイ、マレーシアに拡大し、更に金額はまだ少ないものの米国、カナダ、フランスへと広がってきている。

(輸出戦略)

以上のような輸出振興は一夜で成されたものではなく、国内各地のサツマイモ産地の弛まぬ努力の結果である。例えば、本号No.135「産地情報」に掲載された宮崎県のJA串間市大束の「やまだいかんしょ」の輸出取り組みでは、平成15年から海外販売を開始し現在1.5億円の輸出額に達しているが、当初から順調だったわけではなく、輸送途中における発芽や腐敗という課題を克服した結果といえる。

また、千葉県では、県が主体となって、マレーシアに於いて「千葉県サツマイモフェア」を開催し、現地の人々が好む甘さを売りにした「べにはるか」の試食販売などを行い、県産サツマイモの輸出拡大を図っている。

更に、最近では、茨城県のJAなめがたが、昨年のタイ、マレーシアに続き、北米向けには初めての試みとしてカナダに輸出を開始している。この輸送には特に注意をはらい、品質保持のため冷蔵施設を備えた船便を用いている。

以上の通り、サツマイモの輸出は追い風の中にあり、今後とも輸出に伴う課題を克服しつつ輸出振興を図るよう関係者の努力を期待したい。